

教材・支援機器活用実践事例

【場面に応じたコミュニケーションを学ぶための指導】

	実施年度	平成29年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	相手と話そう！ ～心地よい会話～	
	授業における教師のねらい	<p>○ロールプレイや話し合い活動を取り入れ、場に応じた声の大きさと話したり、他者の話に相槌を打ちながら一方的にならないように他者と会話をしたりすることで、他者とかかわる時の適切な距離感を実践しながら学べるようにする。</p> <p>○グループ内でかかわる機会を意図的に設けることで、他者のよいところや人柄に気付くきっかけへと繋げ、共通の話題を探しながら積極的にかかわろうとする気持ちが育まれるようにする。</p>	
	授業における子どもの目標	<p>○場に応じた声の大きさと話したり、一方的にならずに他者と会話をしたりすることで、他者と適切な距離感でかかわりをもつことができる。</p> <p>○他者に関心を持ち、共通の話題を探しながら積極的にかかわることができる。</p>	
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校 高等部 重複障がい学級 2学年	
	対象の障がい	病弱・知的障がい	
	授業形態	小集団学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>・自閉症やADHDの特性もあるため、会話が一方的になりがちだったり、質問に対して返答することが難しかったりする。休み時間等の余暇の時間には、他者と話したりかかわったりせずに自分の好きなことをして過ごしている。そのため、他者と共通の話題で語り合うことや、自分から話題を提供することが苦手である。また、他者との適切な距離感がつかめず、話すときに近づきすぎたり、声の大きさを調整することができなかつたりする。集団での会話の際にも、場の雰囲気を感じ取り会話の流れを理解して発言することや、自分から会話へ参加することは少ない。現場実習において数名が「もう少し会話ができる」と良い」という評価をいただいたことで、卒業までに改善しなければいけないと自分自身としても感じているものの、そのためにはどのようにしたらよいか方法が分からなかつたり、改善のきっかけがつかめなかつたりしている。</p>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>①ビデオ教材 「こんな時どうする？」</p> <p>②掲示物 (1)話す時、聞く時 (2)話題を探そう</p>	<p>【画像】</p> <p>①</p> <p>②</p>
	活用のねらい	<p>①他者との適切な距離感や話題に気付くことができるようにする。</p> <p>②話すときや聞くときの適切な態度や、話題の探し方を意識することができるようにする。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項	<p>・身近なテーマ及び場面を設定して映像化することで、自分だったらどう行動するだろうかと主体的に考え、問題点や改善点に気付くことができるようにする。また、身近な教師が演じることにより、授業内容に興味をもつことができるようにする。</p> <p>・教室に掲示することで、普段の学校生活の中で常に意識できるようにする。また、キーワードにキャラクターの名称を入れたり、イラストも取り入れたりすることで、少しでも印象づけることができるようにする。</p>		
子どもの変容や評価	<p>・単元が進むにつれ、他の授業でも他の教師から、「生徒同士で話し合うことができた」という声が聞こえてきた。学校生活の中では、「トモダチコレクションを知っていますか？僕は知っています。」等の会話をクラスメイトへ投げかける様子や、朝の会等で話している人へ視線を向けて傾聴しようとする様子が見られるようになった。また、授業のまとめとして自分たちで②のような掲示物を作成し、掲示したことで、他者との適切なかかわり方の意識づけへと繋がった。</p>		